



平成 21 年 5 月 26 日

報道各位

## 平成 21 年度 ACC 事業計画決まる

社団法人全日本シーエム放送連盟

社団法人 全日本シーエム放送連盟（略称：ACC、東京都港区、理事長：永田 圭司）では、5 月 25 日（月）に通常総会を開催し、第 49 回 ACC CM フェスティバル（正式名称：2009 49th ACC CM FESTIVAL）の開催、CM シンポジウムの開催など、平成 21 年度の事業計画を決定しました。

当連盟は、2010 年には創立 50 周年を迎えますが、「よい CM の制作と放送の実現に寄与する」という設立の基本理念を踏襲しながらも、メディアの発達により簡単に情報を入手できる時代において、視聴者に必要とされる CM のあり方、あるいは多様な視聴形態に対応する CM のあり方はいかにあるべきか、という課題に取り組んでいく所存です。

平成 21 年度の ACC 事業計画の概要と ACC 体制は次の通りです。

### 平成 21 年度 ACC 事業計画概要

ACC では各委員会を中心に積極的な活動を行っていきます。

ACC 賞審査委員会では今年で第 49 回を迎える「2009 49th ACC CM FESTIVAL」の開催を中心に各活動を行っていきます。「2009 49th ACC CM FESTIVAL」では、日本における CM コンクールの頂点を目指し、日本最高のスケールと権威ある広告賞として各界から注目を集めるフェスティバルとなることを目標として開催。また、フェスティバルの受賞者に名誉と誇りと喜びを感じてもらえる広告賞を目指します。

今年度の審査委員長を務める佐々木宏氏を中心に 30 名の審査員によって、総務大臣賞／ACC グランプリ、ACC ゴールドのテレビベスト 10・ラジオベスト 5、ACC シルバー、ACC ブロンズなど各賞の選考を行います（審査員名は別紙「委員会活動の概要」に掲載）。ネットエントリーは 6 月 1 日～30 日、素材受付は 6 月 25 日～7 月 2 日、審査結果発表は 9 月 18 日。贈賞式・記念パーティは 11 月 4 日にザ・プリンス パークタワー東京で行い、発表会は 11 月 11 日の東京・有楽町朝日ホールを皮切りに、全国 31 ヶ所の都市で順次開催。そして来年 2 月には、入賞作品を網羅した年鑑を発行します。

また、本年度は「第 14 回パーマネントコレクション（CM 殿堂）」の選考年に当たり、選考会を 7 月に実施し、新たな『CM 殿堂』入り作品を選出します。選考委員長は小田桐 昭氏が務めます。

国際部会においては、カンヌ国際広告祭のフィルム部門審査員選考、カンヌ ヤング クリエイティブ コンペティション日本代表出場チーム選考、入賞作品発表会を実施します。

シーエム向上委員会では、CM の質的向上と人材の育成を目指し、今年度も CM シンポジウム及び ACC 学生 CM コンクール（テレビ・ラジオ）、トキワショーを実施します。

技術委員会では、CM 音量適正化キャンペーンを継続します。具体的には、デジタル放



送時代の CM 音量基準に関するパンフレットをリニューアルし、会員社および関係団体に配布し、その告知普及を図ります。また、デジタル放送時代における CM 制作上の諸問題の研究会も継続し、ACC 会報で報告していきます。

一方、著作権委員会では、CM 制作にまつわる基礎的な問題についての基礎講座の実施やデジタル化に伴う CM 著作権の研究、CM のアーカイブ化における著作権の研究などに取り組みます。広報委員会では、このような ACC の各活動を、年 5 回発行している会報「ACCtion!」のほか、ホームページ、メールニュースなどを利用して、よりタイムリーに発信していきます。また、総務委員会ではこうした ACC 各委員会活動を推進するにあたっての予算管理、および鈴木 CM 賞などの顕彰事業活動を引き続き執り行います。

各活動計画内容の詳細は別紙の通りです。

### 平成 21 年度 ACC 体制

理事長	永田 圭司	キャノンマーケティングジャパン株式会社 顧問
副理事長	仲小路 啓之	味の素株式会社 広告部長
〃	宮崎 晋	株式会社博報堂 専務執行役員チーフクリエイティブオフィサー
〃	岡田 高治	太陽企画株式会社 代表取締役社長
〃	杉山 恒太郎	株式会社電通 常務取締役
〃	石川 康喜	株式会社 TBS テレビ 常務取締役
専務理事	武藤 恒義	社団法人全日本シーエム放送連盟

#### 【委員会委員長】

ACC 賞審査委員会委員長	杉山 恒太郎	株式会社電通 常務取締役
シーエム向上委員会委員長	大谷 研一	株式会社博報堂 執行役員統合クリエイティブセンター エグゼクティブクリエイティブディレクター
技術委員会委員長	木村 克巳	株式会社エムワンプロダクション 代表取締役会長
著作権委員会委員長	貝原 武	株式会社読売広告社 コミュニケーションデザイン統括 ED
広報委員会 委員長	生野 徹	東京ガス株式会社 広報部部長
総務委員会 委員長	仲小路 啓之	味の素株式会社 広告部長

以 上



## 委員会活動の概要

### ACC 賞審査委員会

#### 2009 49th ACC CM FESTIVAL の開催

CM 関係者が互いに切磋琢磨する場を提供し、CM の質的向上を図ることを目的に、1961 年にスタートし、今年で第 49 回を迎える ACC CM フェスティバル（正式名称：2009 49th ACC CM FESTIVAL）は、日本最高のスケールと権威ある CM コンクールとして知られ、毎年 11 月初めに華やかに行われる贈賞式の模様はテレビニュースや新聞を通じて全国に報道されています。新審査委員長の佐々木宏氏を中心とした 30 名の審査員によって各賞の選考が行われます。

#### **佐々木審査委員長のメッセージ**

広告の仕事に、プライドを持てるような。  
企業や商品に、風を起こすような。

何かの真似ではなく、  
誰かの命令ではなく、  
オリジナリティ。

どんな事情にもめげず、  
無理難題にもめげず、  
アイデアと、クオリティ。

自分の所属する会社や、チーム、担当企業など、  
一切のしがらみを捨てて、  
フリーに。フェアに。

いい広告を作ったヒト。  
いい広告を発見できるヒト。  
いい広告が、世の中につよい影響を与えると信じるヒトを、  
審査委員に選ばせていただきました。

佐々木●宏



**2009 49th ACC CM FESTIVAL 審査員メンバー**

\* 敬称略

\* 順不同

審査委員長	佐々木	宏					
テレビチーム審査員	小田桐	昭	堀井	博次	宮崎	晋	
	坂田	耕	岡	康道	多田	琢	
	澤本	嘉光	大貫	卓也	中治	信博	
	児島	令子	白土	謙二	箭内	道彦	
	黒須	美彦	福里	真一	古川	裕也	
	森本	千絵	永見	浩之	谷山	雅計	
	中島	信也					
ラジオチーム審査員	林屋	創一	福本	ゆみ	中山	佐知子	
	安西	俊夫	井田	万樹子			

※なお、特別審査員が最終審査に加わります。

**スケジュール**

募集対象 : 2008年7月1日から2009年6月30日までに社団法人日本民間放送連盟に加入している放送局において初放送されたテレビ・ラジオCMを対象とします。

応募受付 : 応募はインターネットでのエントリーとなります。ACCのホームページ (<http://www.acc-cm.or.jp>) からエントリーをしていただきます。

ネットエントリー : 6月1日(月)～6月30日(火) 15:00 締切り

作品素材提出 : 6月25日(木)～7月2日(木) 16:00 締切り  
(土日は除く)

応募部門 : ラジオCM部門  
(ラジオスポットCM/ラジオCM/ラジオシリーズ CM<2～4本>/ラジオ企画CM )

テレビCM部門  
(テレビスポットCM/テレビCM/テレビシリーズ CM<2～4本>/  
テレビ Small Budget CM<制作費300万円以下※>)

地域ラジオCM部門/テレビCM部門  
(テレビ Small Budget CMを除いた上記同内容)

\*最高作品賞である総務大臣賞/ACC グランプリ・ACC ゴールドのテレビベスト10、ラジオベスト5、ACC シルバー・ACC ブロンズ及びACC ファイナリスト、地域ファイナリスト(各地域別)の各賞が贈られます。また、企画、演出、コピーなど、特にユニークかつ秀逸な技術・技能を提示した個人には特別賞、特に優れた演技力を発揮した個人ないしグループには演技賞が贈られます。



地域審査会：8月に全国7地区で審査

審査会：9月3日（木）・4日（金）（第一次審査・地域二次審査）  
9月10日（木）・11日（金）（最終審査・グランプリ審査・特別賞審査）

審査発表：9月18日（金）

贈賞式・記念パーティ：11月4日（水） ザ・プリンス パークタワー東京

入賞作品発表会：11月11日（水）東京・有楽町朝日ホールを皮切りに、  
全国31ヶ所の都市にて順次開催されます

### ジャーナリスト賞選考会の開催

2000年度に創設されたジャーナリスト賞は、今回で10回目となります。新聞社・通信社12社（朝日新聞・産経新聞・東京新聞・日本経済新聞・毎日新聞・読売新聞・共同通信・時事通信・サンケイスポーツ・スポーツニッポン・スポーツ報知・日刊スポーツ）の文化部長・学芸部長・文化社会部長等が選考委員を務め、2009 49th ACC CM FESTIVALで、ACC ブロンズ以上に入賞した作品の中から、最も時代性・社会性を反映し影響力のあったラジオおよびテレビコマーシャル各1作品をジャーナリスト賞として選びます。選考会は9月17日に開かれる予定です。

なお、今年度の座長は木俣自明氏（報知新聞社）が務めます。

### 「ACC CM 年鑑」の刊行

1964年に世界で初めて「CM 年鑑」を刊行して以来、毎年「ACC CM 年鑑」を発行しており、CM の貴重な記録となっています。今年は、2009 49th ACC CM FESTIVAL の入賞作品を対象に収録し、その他の各広告賞情報など、一層充実したCM 年鑑を目指します（発行は2010年2月15日予定）。また、ACC 会員の記録・研究資料として「CM 年鑑 DVD・CD 版」（会員社のみ限定）も制作します。

ACC 賞審査委員会は、ACC CM フェスティバルの他、次の事業を行います。

### 第14回パーマネントコレクション(CM 殿堂)選考会の実施

本年度は「第14回パーマネントコレクション（CM 殿堂）選考会」を実施する年となっています。選考対象は1999～2001年のACC CM FESTIVAL 入賞作品のブロンズ以上の作品です。選考委員長は小田桐 昭氏で、7月に選考会を開き、新たなCM 殿堂入り作品を選出します。



**第 14 回 ACC パーマネントコレクション選考会**

- \* 敬称略
- \* 五十音順

選考委員長	小田桐	昭			
選考委員	麻生	哲朗	井田	万樹子	井村
	早乙女	治	坂田	耕	澤本
	田井中	邦彦	高谷	浩司	谷口
	中山	佐知子	早川	和良	林屋
	宮崎	晋	山崎	隆明	創一

**海外の国際広告賞との交流推進**

海外広告賞を通じ最新の海外情報を提供することによって、広告に携わる方々の業務に役立てていただき、CMの質の向上に寄与するとともに、国際舞台で活躍できるクリエイターの育成を目指します。主要な海外広告賞であるカンヌ国際広告祭では、フィルム部門日本代表審査員の選定と「カンヌ ヤング クリエイティブ コンペティション」日本代表チームの選出（3月）、カンヌ国際広告祭研修ツアー（6月）、カンヌ国際広告祭入賞作品研究発表会（9月）を企画し、積極的な海外交流を推進していきます。

今年の日本代表審査員は河野 俊哉氏（博報堂）。帰国後には、その貴重な経験を基に、上記カンヌの入賞作品研究発表会の場において、世界の最新情報を交えた報告を行います。一方、「カンヌ ヤング クリエイティブ コンペティション」では、日本からの参加チームが世界のクリエイティブチームと同じ土俵で競い合うチャンスを活かしていただくため、ACC 国際部会が本番さながらの英語による国内選考会（フィルム部門、プレス部門の2部門）を実施、日本代表チームを選出しています。なお、今年はフィルム部門で高島 夏来さん（㈱東北新社）、武井 哲史さん（㈱アサツー ディ・ケイ）のチーム、プレス部門で工藤 真穂さん、土居 美由希さん（㈱電通）がカンヌ国際広告祭カンヌ ヤング クリエイティブ コンペティションに日本代表チームとして出場されます。

**シーエム向上委員会**

過去6回に亘り高い評価をいただいた CM シンポジウムを今年度も開催するほか、ACC 学生 CM コンクールの実施、地域 CM 研究会への講師派遣協力などを行います。また、昨年「匿名座談会」に代わって実施した「トキワショー」を今年も開催する予定です。

**CM シンポジウムの開催**

今年度もプロジェクト・チームを結成してより有意義なシンポジウムの開催を目指し、各界の有識者によりCM制作に関する問題点を徹底的に議論するシンポジウムを実施します。シンポジウムの要旨は、会報に掲載する予定です。



### **トキワショーの開催**

昨年に引き続き、若手の人材育成の一助となるような若手クリエイターの意見交換の場を設けます。

### **ラジオ CM プロジェクト**

2006 年度にラジオ CM の活性化を目指し ACC 会報企画としてスタートした対談「ラジオのチカラ」は、今年度も引き続きラジオの成功事例に注目して実施し、ラジオ CM を熱く語っていきます。

### **第 22 回 ACC 学生 CM コンクール(テレビ CM・ラジオ CM)の実施**

ACC では本年も第 22 回 ACC 学生 CM コンクール(テレビ CM 部門・ラジオ CM 部門)を実施します。このコンクールは CM 制作の新しい人材を育成する一助として、1988 年に ACC 学生ラジオ CM コンクールとして始まり、2000 年からテレビ CM 部門が加わり、現行の形となりました。入賞者への贈賞は ACC CM フェスティバル贈賞式(11 月 4 日・ザ・プリンス パークタワー東京)の席上で行います。

その他にもシーエム向上委員会では、全国の主要地区からの要請に基づき、地元の広告関係団体の「CM 研究会」に ACC からの講師を派遣するなどしてバックアップしていきます。

### **技術委員会**

技術委員会は、CM 放送における技術問題について、関係者間の共通認識の醸成と相互理解に基づいた課題解決に取り組んでいきます。

### **CM 音量適正化キャンペーンの継続**

2001 年 12 月に発行したパンフレット「CM の音は適正に！」をデジタル放送時代の CM 音量基準に関する内容にリニューアルし、会員社および関係団体に配布し、その告知普及を図ります。

### **デジタル放送時代における CM 制作上の諸問題に関する研究**

デジタル放送時代における CM 制作上の諸問題について、今年度は①CM の音声(サウンド、ラウドネス等)に関する研究②デジタルサイネージを中心とした CM のマルチユースの研究③CM 素材のファイル化に関する研究の継続、をテーマに研究会を実施し、その内容を会報を通じて会員社に報告します。



## 著作権委員会

著作権委員会では、今までの委員会活動で取り組んできた事業を引き続き継続していくとともに、著作権に関する裁判所の最新の判例の動向、並びにデジタル化の進展に注意し、勉強会の開催、必要に応じてプロジェクトを発足し、最新の動向に対応していく方針です。

### **デジタル時代のCMの管理と運用についての啓発**

昨年度より進展しているデジタル化に伴うCMの管理、運用等について研究を進め、関係団体の承認を得て、業界内で共通の認識を持っていただけるように啓発します。

### **CM制作プロセスマネジメント・ハンドブックの普及**

本ハンドブックを増刷し、広告主、広告会社、制作会社及び広告関係団体の新入社員教育等に教材として使用していただき、その普及を図ります。

### **基礎講座の開催**

CM制作プロセスマネジメント・ハンドブックの普及対策の一環として、第一線で活躍されている方に、CM制作の基礎知識、及び問題点、改善点等について講義していただきます。

### **CMのアーカイブ化における著作権の研究**

公益目的の観点から、過去に制作されたCMのアーカイブ化の問題点を整理するとともに、今後制作されるCMをアーカイブ化するに当たっての対策を検討し、その設立に当たっての環境を整備していきます。

### **CM情報センターの活動状況の把握と調査、研究**

CM情報センターの運営状況を把握するとともに、CM情報センター設置要綱に基づき、使用料及び活用料の用途について検討していきます。

## 広報委員会

会報、ホームページ、メールニュース、ニュースリリース、記者懇談会（発表会）などを通じ、ACCの活動を理解していただき、支援していただけるよう、会員はもちろんマスコミにも広く働きかけていきます。また、それと同時に、広く一般視聴者に対して、CMへの興味喚起を促進し、これらの活動を通して、CMの質的向上に少しでも寄与するよう努めていく考えです。

### **会報での情報発信の強化**

今年度も会報を年間5回発行し、ACCの活動をきめ細かく発信していきます。また、連載や特集、対談など、内容を充実させて、手に取っていただける会報を目指します。





## ホームページの徹底活用による情報発信

ホームページでは「ACC CM フェスティバル」の作品エントリーをはじめ、入賞作品速報、ACC 学生 CM コンクールなどを随時掲載、これに会員社リスト、委員会情報などの定番情報が併せていつでも閲覧できるようになっています。昨年度のホームページへの閲覧は 182 万ページビューとなっており、今年度もフェスティバルのネットエントリー等で活用し、ホームページの有効利用を図っていきます。

## ACC メールニュースの配信

2003 年 9 月から、会員サービスの一環としてスタートした ACC メールニュースは、登録メンバーが 1,600 人を超え、有力な情報伝達ツールとなっています。登録はホームページにより随時誰でもでき、今後ホームページなどとの連動で登録数の拡充を図り、さらに積極的に活用していきます。

## 積極的な広報活動の展開

ACC CM フェスティバルを最重点にして広報活動を充実させるとともに、シンポジウムや学生 CM コンクールなど、ACC の活動をアピールできる機会を捉えて、広報活動を積極的に展開していきます。

## 総務委員会

総務委員会は、ACC の基本となる業務・総務事項の方針策定を目的に設置され、今年度も次のような活動を行っていきます。

### ACC の事業計画、予算の管理

ACC の様々な各委員会活動を円滑に進めるにあたり、委員会別の予算管理を行い、健全な事業運営を目指します。

### ACC 運営の統括

運営の核となる正副理事長会議や理事会、そして総会に至るまでのスムーズな運営を図ります。

### 顕彰事業の実施

鈴木 CM 賞、ACC 理事長賞、ACC 貢献賞の選出等の顕彰事業を行います。鈴木 CM 賞の贈賞は毎年 11 月に行われる ACC CM フェスティバルの贈賞式の席上で、一方 ACC 理事長賞と ACC 貢献賞は、毎年 5 月に行われる通常総会において行います。

鈴木 CM 賞は、わが国の CM 界に顕著な貢献をした個人に贈賞するもので、民間放送発足以来 CM を通じて経営に尽力された方、CM 技術の向上開発および CM の啓発



に著しい役割を果たした方、また現在その立場にある方など、同賞に相応しい方に贈られます。

また、ACC 理事長賞はわが国文化の一翼を担う CM の重要性を認識し、CM の向上に資する目的をもってこれを贈るものであり、対象は ACC の運営に参画し、CM の向上に多大に寄与・貢献した方の中から選ばれ、ACC を構成する会員社の個人に贈られます。

## 50 周年記念事業着手

2010 年の創立 50 周年記念事業に向けて準備にとりかかります。

以上

### この件に関するお問い合わせ先

(社) 全日本シーエム放送連盟 (ACC)

〒105-0004 東京都港区新橋3-1-11 長友ランディックビル5F

TEL : 03-3500-3261 FAX : 03-3500-3263

ホームページ <http://www.acc-cm.or.jp>

担当 : 小原